



第78号

富水地区まちづくり

ふれあいだより

発行日 令和7年11月1日
発行 富水地区まちづくり委員会
広報分科会会長 内山善弘
事務担当 小田原市役所地域政策課内
住所 小田原市荻窪 300 番地
電話 0465-33-1389



QRコード



「ふれあいだより」と「ふれあい通信」の最新号およびバックナンバーが閲覧できます。

「新しい地域コミュニティ施策」 backboneとなる自治会が中心となりながらも社協や学校など他の団体が補完していく。これまで個々の団体が個別に対応していたことから相互に連携しながら互いに足りないところを補い持続可能な地域社会を目指します。

「富水まちづくり委員会 木村秀 昭委員長挨拶」
富水まちづくり委員会は平成二十二年十月に発足し八つの分科会、七十三名が活動しています。加藤市長へは八つの分科会の活動概要について説明させていただきました。十月十八日は富水地区最大のイベントである「ワイワイフェスタ」が開催されますが、これからも活性化させより良い地域となるよう努力していきます。

「加藤市長挨拶」
昨年の自治会長大会にてこの地域活動懇談会を二六地区全区で行うことを提言し、本日の富水地区が最後となります。

昨年市長に就任して以来現状の課題を確認、研究し総合計画を策定、令和八年度からの実行計画に盛り込んだので具体的な取り組み内容について説明いたします。

「新しい地域コミュニティ施策」 backboneとなる自治会が中心となりながらも社協や学校など他の団体が補完していく。これまで個々の団体が個別に対応していたことから相互に連携しながら互いに足りないところを補い持続可能な地域社会を目指します。

地域と行政は協働のパートナーである

す。そして行政は地域コミュニティの取り組みを人的・資金的に支援していきます。

自治会加入率が六年間で八%減少しています。世帯数は増加しているのに自治会加入数が減少、加入率の維持向上が求められており、自治会の活動内容や存在意義の認知に向けた情報発信が必要だと考えています。また、地区で活動している分科会の数はコロナ下にあっても減少していませんが、役員の固定化・高齢化といった次を担う人材がいなかったことが地域運営の課題となっています。その他、各種団体間の取り組みの重複や活動自体が目的化していることが見受けられます。



【地域コミュニティ】
自治会・福祉協議会・消防団・PTA・学校・警察・企業/商店街など

地域の負担を減らす施策としてより深く地域に関わる地域担当職員の拡充を計画、市職員を昨年度の六人から八人に増員、学校を拠点に年に一地区ペースで整備を進め二六地区の運営を支援していきます。

「参加者からは」

自治会加入率五割を切った自治会では解決困難。自治会の存在意義を浸透させる施策は腹落ちする内容となるよう継続して取り組んで欲しい。また、学校教育の中で地域活動として六年生対象に地元香川さんに畑を借りて野菜を育て収穫することで地域とのつながりを持つています。始まったばかりですが成功体験を得ながら継続したいと考えています。

所感

行政の四つの指針の中から今回は地域コミュニティ施策が中心でした。自治会組織が基盤となり生き生きとした小田原市を作っていくことに、まちづくり委員会もその一役を担っているのだと感じました。